

令和 7 年度 三好市立学校評価報告書

学校名(池田小学校)

校長名(山下 史記)

作成日 令和8年3月23日

1 総括評価

評価分野	自己評価 (平均値)	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 学校経営及び学校運営に関する評価	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標にある知徳体を学校経営方針に明確に反映し、教職員が共通理解のもとで教育活動に取り組める体制づくりを進めた。池小スタンダードの定着とICT活用を組み合わせ、学力の二極化解消や基礎学力向上を目指した取り組みを実施した。また、校時表の見直しや業務改善を行い、アンケートフォームなどICTを活用した集計の効率化により業務を簡素化した結果、教職員の超過勤務が前年度より減少するなど働き方改革にも成果が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に学校経営方針が明確に示され、共通理解が図られた。伝統を大切にしつつ、GIGA端末の活用など新しい取組も取り入れ、バランスの取れた運営ができています。 ・教育目標を共有し、学校の実際の姿に落とし込んで取り組めており、引き続き協力していくという意見をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校力向上事業で授業改善と研修を活性化し、若手育成のためメンター制と特支研修を継続する。 ・PDCAによる業務改善の見直しを行い、働き方改革に繋げていく。
② 教育目標及び教育計画に関する評価	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・池小スタンダードの徹底とICT機器の活用により、学力向上を目指した。少しずつではあるが成果が見られはじめています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知徳体の育成を柱に明確な計画を立てており、理解しやすい内容となっていた。学力の二極化を課題として認識し、タブレット活用を継続しながら改善を進めていく必要がある。保護者アンケートの肯定的意見と否定的意見の差を縮めることが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域と教育目標を共有し協働して児童を育成しつつ、「池小スタンダード」のさらなる定着を図り、十分でなかった部分について、定着に向けた効果的な取り組みを進めていく。
③ 主要な教育活動に関する評価	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した個別最適な学習や対話的な活動を充実させたことで、児童が主体的に学びへ向かう姿が見られるようになった。生徒指導上の課題にも協力して対応するために、保護者とのこまめな連絡や連携に取り組んだ。また、人権集会や委員会活動を通じて全校で人権教育を推進し、安全教育では引き渡し訓練を継続するなど実践的な取組を行った。さらに、保・幼・小の連携や情報交換を重ね、子どもたちが安心して小学校へつながる体制づくりも進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用が十分に行われており、体育行事、特に陸上で全県的な成果が得られた。モジュール学習を導入したが、その時間のより効果的な活用が今後の課題。家庭との連絡・相談は良好な評価が得られており、今後も保護者との関係を大切に教育活動を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育DXを生かした全教科での主体的な学習の充実を図る。また、タブレットを活用した個別最適で協働的な学習を充実させ、基礎学力や思考力・表現力の向上を図る。
④ 保護者や地域との連携等に関する評価	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPの更新や学校だよりの配布を通して保護者や地域への情報発信を強化し、学校運営の周知を図った。市制20周年記念イベントでは金管バンド部が小中高合同演奏に参加し、地域とのつながりを深める機会となった。また、地域人材や外部講師を学年ごとに複数回招へいし、授業の専門性向上と地域との協働体制の構築に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と関わることは重要であり、他の小規模校に比べると地域団体との連携は弱く、今後も繋がり維持が必要。幼小連携に加え、保育所・園との交流学習は小1プログラムの緩和に効果的であるので、今後も交流の継続が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA組織や委員会の活動内容の見直しを保護者の理解を得ながら進めていく。 ・地域人材活用を学校運営協議会等と連携して推進する。幼保小の連携を継続し、相互参観も検討する。
⑤ その他、上記以外に関する評価(指定研究の取組)	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の定期安全点検を継続し、老朽化が進む設備の修繕を適宜行うことで安全な学校環境の維持に努めた。タブレットを活用した学習では児童のICTリテラシーが向上し、タイピングや資料作成、検索などの技能が育っている。特別支援教育や児童理解に関する研修も充実し、特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の強化や若手教員育成にもつながった。さらに、全クラスでオープンクラスを実施し、授業参観を通して教職員同士が授業改善や指導力向上を図る機会を継続的に確保した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を活用し、学校と地域が一体となった児童育成を進めることが求められている。 ・近隣校の小規模化に伴い、池田小に研究会や研究指定が回る可能性があり、教育先進校として積極的に役割を担うことが期待される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理の点検を継続して事故防止に努める。 ・いじめアンケートだけでなく、日常の児童の様子の詳細な見取りを通して、いじめなどの問題を早期に発見できるように努めていく。また、PBSの視点を取り入れた積極的な声かけや称賛の実践を進めていく。

(1) 4段階評価とする。

評価基準 4=達成度が 90～100 %
 3=達成度が 70～ 90 %
 2=達成度が 50～ 70 %
 1=達成度が 50% 未満